ケアマネジメント実践ネットワーク メールマガジン Vol.7

2023/10/4 配信分

今回のメイントピック

適切なケアマネジメント手法実践研修における事例の紹介 part6

性別	男性	認定区分	要介護２	年齢	85歳
居住形態	戸建て、高齢者のみ世帯		主な疾患	糖尿病、認知症	
利用サービス	ショートステイ（週１回）、通所リハビリ（週3回）				

この事例を選定した理由

食事や排泄など聞きにくい内容についての情報収集が難しく、曖昧で抜け漏れが多かった。
担当した5年間は体の不調なく過ごすことができているため、状態を維持しつつ、これまでよりも**詳細な情報収集を行うことで、本人が楽しめるような活動を提案**したい。

研修開始時における事例の課題：主介護者の負担の増大、家庭での役割が減っている

本人は「同居の妻のために何かしたい」と思い、家事や庭仕事を手伝うが、認知症のため途中で何をしているか忘れてしまい、妻からは困った行動と思われている。認知症の影響で自身の食事や排泄について覚えておらず、**利用者本人から正確な情報を収集することが難しい**。

実践研修で着目した基本ケアの項目と実際の取り組みと変化

☞項目７ 食事及び栄養の状態の確認

自作の聞き取り用メモを作成し、**モニタリングの際に食事内容や食事量、摂取カロリー、水分量を具体的に確認**するようにした。**毎回のモニタリングで詳細な確認を続けていた**ところ、**利用者本人やご家族も協力**してくれるようになり、より詳細な情報を集めることができた。研修開始時は便秘に悩んでいる様子だったが、**毎月の聞き取りで利用者の食事や水分摂取への意識も高まり、便秘が解消された**。

☞項目35 本人の喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援

認知症による物忘れの症状はあるが、体力はあり、日中も家の中で動き回っている様子だった。通所リハやショートステイの職員に利用者の様子を聞いたところ、**手先が器用であるとわかった**ため、手先の器用さを活かし、**不要な布を切ってモノづくりをする活動を検討しショートステイに提案**した。ショートステイの人員不足の関係ですぐに活動を始めることは難しかったが、**利用者の強みを引き出せるような方法を継続的に検討**したい。

☞項目40 家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備

利用者と妻は2人暮らしであり、利用者に関する情報収集や家での活動のサポートは妻にしか頼むことができないが、**妻は物忘れの激しい利用者の行動への対応で精いっぱいな状況**だ。**認知症の家族会の集まりを紹介し、まずは妻の負担を減らすことを検討**したい。

「適切なケアマネジメント手法」基本ケアに関する資料は下記HPから閲覧できます。
URL： https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/04/

▼冊子

▼項目一覧

適切なケアマネジメント手法に関するQ&A

適切なケアマネジメント手法に関してよくある質問と回答をご紹介します。

Q.「想定される支援内容」を見ると似たような支援内容があるが、違いはなに？

A. 本手法の「想定される支援内容」は、**上位の理念の実現のためにどのような支援内容が必要か**、という観点で整理しています。つまり、**大項目で示す内容を実現するために中項目と支援内容があるという構造**になっています。そのため、上位の目的が異なるが同じような支援内容が必要となる場合、「想定される支援内容」に似たようなものが示されています。**似たような支援内容については、その上位の項目（中項目、大項目）と併せて捉える**ようにしてください。

Q.「アセスメント/モニタリング項目等」が非常に細かいが、ここまで細かく情報を収集するの？

本手法で示す「アセスメント／モニタリング項目等」は、個別化された具体的な支援内容の検討につながるよう、掘り下げるために収集・検討しておきたい情報項目を整理・列記しています。そのため、ケアマネジャーが普段つかう**アセスメントツールにの項目内容と比べると細かいものになっています**。ご本人が望む生活の継続を支えるために、個別化された具体的な支援内容を検討するためには、このくらい掘り下げた情報の収集・整理が必要であることをまずはご理解ください。

そのうえで、**これらの情報収集をケアマネジャーが一人で担うのではなく、事業所や他の専門職、あるいは状況に応じてご本人や同居者とともに、チームで情報の収集・整理・共有を実施することを目指しましょう**。なお、チームで情報収集に取り組むにあたり、「なぜ、この情報の収集と共有が必要か」が問われるが、これについては「想定される支援内容」ごとに示す「支援の必要性」の説明を活用し、他の関係者の理解を得るようにするとよいです。

HPには他にも様々なQ&Aが掲載されていますので、ぜひご覧ください。
URL： https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/caremanagement/06/

適切なケアマネジメント手法検討委員インタビュー動画紹介

「在宅生活における医療と介護の連動と主治医機能の考え方について」

医療法人財団　千葉健愛会　あおぞら診療所　院長　　川越　正平　先生

川越正平先生の動画では、「在宅生活における医療と介護の連動と主治医機能の考え方について」というテーマでお話していただきました。

動画では、居宅療養指導や診療とケアマネジメントの連動の中で関わる多職種、その連動の中でのケアマネジャーの役割を具体例を出しながらご説明いただいております。ケアマネジャーは他の専門職から受け取った情報や利用者の生活の状況を伝達する重要な役割を担っています。主治医やその他の多職種へ情報提供・情報収集をする際にお役立ていただければと思います。

動画の視聴はこちらから！

このメールマガジンで取り扱って欲しいトピックを募集しています！

このメールマガジンでは、今後も「適切なケアマネジメント手法」などケアマネジメントに関する情報を発信していきます。ケアマネジメント実践ネットワーク会員の皆様は、このメールマガジンで取り扱って欲しいトピック、提供して欲しい情報などがございましたら、下記のお問い合わせ先までメールにてお気軽にご連絡ください。

次回の配信日は**2023年10月24日（火）**を予定しております。

お問い合わせ先
株式会社日本総合研究所 創発戦略センター ケアマネジメント実践ネットワーク事務局 辻本、山内
E-mail 100860-caremaneML@ml.jri.co.jp
※事務局内での管理・共有のため、メールでのご連絡をお願いしております。